

平成30年度の教育活動等に関する学校評価書

教育目標(誠実な人間、良き社会人の育成)

静岡サレジオ小学校長 末吉弘治
学校法人星美学園 学校評価委員会

評価項目	評価内容	自己評価		学校関係者評価
		評価点	学校としての反省・改善策	
1	教育目標	A	校訓である「清い心・たゆまぬ努力」を達成するために「あたたかな思いやりと活気に満ちた明るい子」の育成を目指した教育活動を行うことができた。またPYP候補校として、教育目標を具体的に10の学習者像として示し、学習・生活両面において取り組むことができた。	○学校の教育目標でもある 誠実な人、良き社会人の育成に達する為の取組が保護者から見てもよく指導されているように。子供も楽しく学校生活をすごせているようで感謝している。以前は気になっていた電車での通学マナーもよくなっているように感じる。
2	宗教指導	A	聖書の教えを基礎として宗教の授業を行い、宗教行事だけでなく、日々の生活の中にも神様の存在を感じ生活することができた。カトリックミッション校として発達段階を踏まえながら教育活動を行っている。	
3	教育課程	A	国語・算数・英語は標準時間数より多く設定し、基礎基本の徹底を図っている。読むとくメソッド、英検Jr、ウイークリーテスト等サレジオメソッドも取り入れ、語彙数を増やしたり、リスニング力を高めたり、学習の効果が現れるように工夫した。また、探究学習を進めることで、より10の学習者像に近づけるようにした。	○英語の時間数が多くEP・RS、CLILと分けられていて英語で歌いながらダンスをしたり楽しみながら学習が出来ていて良い。その成果を発表できる場をつくってくれてうれしい。日頃から外国人の先生と触れ合えるのも良い。 ○国語は読解力がのびるよう読む力理解する力をつけるため小論文や日々の日記新聞記事の感想など人前で自分の意見や考えを発表し友達の発言を聞くと言う事が良いと思う。 ○算数の放課後学習もお願いしたところ、すぐに対応してもらい、自主的に参加出来るよう3クラスに呼びかけ生徒自身が考えて参加する機会を作ってくれた。本当に感謝している。
4	評価・認定	A	一人ひとりの児童に寄り添いながら、丁寧に指導を行っている。観点別に評価を行ったり、どのように学びが深められているか学習の過程を記述している。また、英検Jr.テスト・読書診断指数などの外部評価や自己評価も取り入れ、客観的に評価している。	○生徒の性格、仲良しの友達、好きなことまで理解してくれていると思う。クラスで誕生会やハロウィン クリスマス会 おわかれ会など子ども達と一緒に考え遊んでくれている姿がとてもいい。先生方が明るくやさしい方々でとても安心して子供を預けられる。A評価が妥当だと思う。
5	教科指導	A	教科で教えるべき知識とスキルを確実に身に着けるための授業改善を進め、実行した。全体的に落ち着いた学習に取り組んでいる。	
6	授業研修	A	授業について教員間のミーティングを週1回行い、授業設計への理解を深めるとともに、年3回の研究授業を計画・実行し、効果を検証した。ICT機器も取り入れ、積極的に校内研修を行っている。	○保護者の見えぬところでも先生方が頑張ってくれており素晴らしい。
7	学級経営	A	学級の児童と共にいることを大切に、子どもの心をもとめ取り組みを実践している。年2回の個別面談だけでなく、保護者と連絡を密にとり適切に対応している。	
8	生活指導	A	毎月の生活目標を決め、教師が共通理解をもち、朝礼や朝の会等で大切なことを呼びかけている。また、通学マナー等についても、集団下校グループを作り指導を行っている。特にJR通学者に関しては、繰り返し乗車マナーの指導を行っている。	
9	進路指導	A	児童や保護者との面談をもち、児童の将来を考えた進路指導を行っている。将来の夢をもち、具体的な将来像を持つことによって児童の学習意欲も上がっている。5年生と6年生時に中学校の説明を聞き、サレジオ中学校への理解も深めている。	
10	安全管理	A	毎日朝の会で、児童の健康観察を重視して行っている。また安全面では、登下校安心メールを利用したり、JR草薙駅構内まで教員が毎日送ったり、児童の安全面に配慮している。非常時には、教員が児童の最寄り駅まで引率して下校し、確実に保護者に引き渡すようにしている。学校を取り囲むブロック塀の安全基準に関して調査を行い、必要に応じて処置を施した。	
11	校務分掌	A	全教職員がそれぞれの職務や担当する役割に対し、責任を持って取り組んでいる。	
12	行事運営	A	児童の発達段階に合わせた行事が各学年実施されている。全校行事に関しては、年2回学習発表の場を設け、保護者も参加し、学習成果を発表している。今後は行事を見直し、PYP学習発表会も検討している。	
13	管理運営	A	学年部長を中心に2学年ずつ組織され、報告・連絡・相談・指示を密に行い、保護者とも迅速に連携できる体制をとっている。また学年部長は管理職との連絡を密にとり、それぞれが協力して運営を行っている。また、幼・小・中・高との連絡も密に取り合い、学園として一本化した運営を行っている。	○保護者会などでも学年の先生方のわかりやすい説明など、いつも子どもたちの学校生活が楽しいものであることが伝わってくる。先生方同士の連携は、その上の方々、他の学年など、先生方に迅速に伝わっているのだと実感している。
14	施設・設備	B	校舎の老朽化のため、修理が必要な箇所が多い。3階は雨漏りをする場所もある。新校舎建築に向け準備をしたい。Wifi環境が整備され、タブレット端末を使って様々な学習が可能となった。	○校舎の老朽化の理解と、それを隠さず公開しているところが良いと思う。

15	課外活動	放課後の課外活動を通じ、教師が常に児童と共にいるように努めている。	A	ジョイクラブ、課外体育、スクールバンド等、週に2～3回の課外活動を行っている。放課後の補習学習なども行い、常に児童と共に教員がいるようにしている。また、放課後のドボ・スコラでは、家庭的な雰囲気のもと児童を預かり、共に学習したり、遊んだりしている。	○小さい子供達の姿は、中学・高校の生徒達にとって、気持ちの上でとても安らぐ存在と思う。今後もお互いの交流の場をもって関係を保っていただきたい。
全般、総合評価		A	物理的にも精神的にも常に子供達とアシステンツァ(共にいること)を心掛け、教職員が一丸となって取り組んでいる。そのため、どの項目においても十分に成果があった。国際バカロレアPYP候補校として、探究学習を進める中で国際的視野に立ち、異文化理解と尊重を通じて、より良い平和な世界の構築に貢献できる人の育成に取り組んでいる。建学の精神のもと、更なる努力を続けていきたい。	<p>○いつも教員の皆様には大変熱心に子供達に接していただき、納得の評価かと考える。ただ一つ評価点Bに關しまして早期に補修をして頂き、とりあえず安全な環境にってもらうように希望する。</p> <p>○私の周辺でのサレジオ小学校の評価は、国際バカロレアの候補校としてのPYP学習やサレジオメソッドなど他の小学校とは異なる教育課程に注目が集まっているように感じる。今後はその教育成果をどのように対外的にアピールしてゆかが重要になると思う。</p> <p>○児童の成績評価に外部評価や自己評価を取り入れている点は高く評価したい。校舎の老朽化に対する整備計画を迅速にすすめることを期待する。</p> <p>○幼・小・中・高と全てにおいて、カトリックの教を学べることは人としての道徳心を養えるので、とても感謝してサレジオで学ぶことに満足している。なかでも、小学校の6年間は、人間形成していく上でとても重要な時期だと思っており、体力的にも精神的にも、まだ、未熟で大人の言うことに大きく左右されるときだと思ふ。そういう時期に巡り合う友達や先生、環境はとても大切だと思ふ。サレジオの教育目標を軸に、教育課程や教科指導等、素晴らしいと思ふ。反面、一部教諭のやや配慮にかけける言動を見たときは、とても残念に思ふ。カトリック学校として、思いやりや感謝を育んでいる子供達の心に傷を残すことがないように願う。</p> <p>また、子供の事を学校や塾任せにしてしまう親もいるように感じるが、子供は家にいる時間が一番長いので、保護者と学校とその他の関わる方々と一緒に子供を育てていける社会や環境であってほしい。静岡サレジオはそれができる学園だと思ふ。</p>	

【評価点】

- A: 十分に成果があった
- B: 成果があった
- C: 少し成果があった
- D: 成果がなかった

今後に向けての考え(学校関係者評価を受けて)

建学の精神のもと、学校生活全般において更なる精進を重ねたい。学習面においては、新学習指導要領に向けた授業改善を具体的に進めた平成30年度だった。国際バカロレアPYP・MYP候補校として、探究型授業の研究に取り組み、実践を行った。保護者会やPYP保護者勉強会を年3回行い、学校の現状を伝え理解を求めた。平成31年度は更に実践を重ね、探究型授業の研究、教員研修組織、学習評価などを内外に対しオープンに学校の現状を伝えていきたい。また、ICT等、21世紀型教育に対応した教育環境も整備していく。